り長期の観察が必要と思われた.

13. 心筋症における心筋脂肪酸代謝異常；心筋症モデルハムスターと ^{125}I-BMIPP による基礎的検討

松村　要　竹田　寛　多上　智康
村嶋　秀市　中島　弘道　麻生　浩子
山門亨一郎　奥田　康之　中川　毅
（三重大・放）

^{125}I-BMIPP を心筋症ハムスター (Bio. 14.6) に用いて，心筋症における心筋脂肪酸代謝異常についての基礎的検討を行った. Bio. 14.6 (月齢 6 か月) の心筋内の各壁での平均集積率 (% kg dose/g, n＝3) は投与後 30 分にて左室前壁 0.99 (健常 1.33), 側壁 1.32 (1.43), 下壁 1.28 (1.38), 中隔壁 0.95 (1.33), 右室壁 0.95 (1.29) であり，健常群に比して低値を示し，特に前壁，中隔壁，右室壁では有意 ($p<0.05$) の低値となり，心筋内にて不均一な脂肪酸代謝障害が生じることが示された．代謝性強心剤 coenzyme Q_{10} (10 mg/kg/day 経口, 2 か月間) により BMIPP の心筋内集積率低下に明らかな改善を認めなかった.

14. 心サルコイドーシスにおける核医学的検討

石川恵美子　外山　宏　古賀　佑彦
（藤田保衛大・医・放）
徳田　衛　皿井　正義　平光　伸也
森本紳一郎　菱田　仁　渡辺　佳彦
（同・内）
立木　秀一　前田　寿登　近藤　武
竹内　昭　（同・衛・診放技）
南　一幸　西村　哲浩　（同・病院）

[目的] 心サルコイドーシスと診断され，ステロイド治療された 4 症例を核医学的に検討した. [対象] 臨床的に心サルコイドーシスと診断された女性 4 名 (平均 60.8 歳). [方法] ステロイド治療前後で ACE, リゾチーム, LVEF と核医学的検査所見を比較検討した. [結果] 治療開始後，全例に ACE, リゾチーム，LVEF の改善，3 例において Ga シンチの心臓集積消失を認めた. BMIPP, MIBG 心筋シンチの変化は症例によりばらつきが多く，他の臨床所見と必ずしも関連しなかった．心症状が軽度な症例では，BMIPP, MIBG 心筋シンチ所見が比較的軽度であり，治療による所見の改善も良好であった. [結語] 心サルコイドーシスの経過観察，治療効果判定に核医学的検査は新たな情報を提供すると考えられた.

Presented by Medical*Online